

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2004-239994

(P2004-239994A)

(43) 公開日 平成16年8月26日(2004.8.26)

(51) Int.Cl.⁷

G09F 3/00
G09F 3/02
G09F 3/04
G09F 3/10
// H01R 13/46

F I

G09F 3/00 Q
G09F 3/02 N
G09F 3/04 C
G09F 3/10 A
H01R 13/46 301D

テーマコード (参考)

5E087

審査請求 未請求 請求項の数 3 O L (全 11 頁)

(21) 出願番号 特願2003-26647 (P2003-26647)

(22) 出願日 平成15年2月4日(2003.2.4)

(71) 出願人 000005201

富士写真フイルム株式会社

神奈川県南足柄市中沼210番地

(74) 代理人 100079049

弁理士 中島 淳

(74) 代理人 100084995

弁理士 加藤 和詳

(74) 代理人 100085279

弁理士 西元 勝一

(74) 代理人 100099025

弁理士 福田 浩志

(72) 発明者 三宅 路裕

埼玉県朝霞市泉水3丁目11番46号 富

士写真フイルム株式会社内

Fターム(参考) 5E087 EE12 MM01 QQ01 RR42

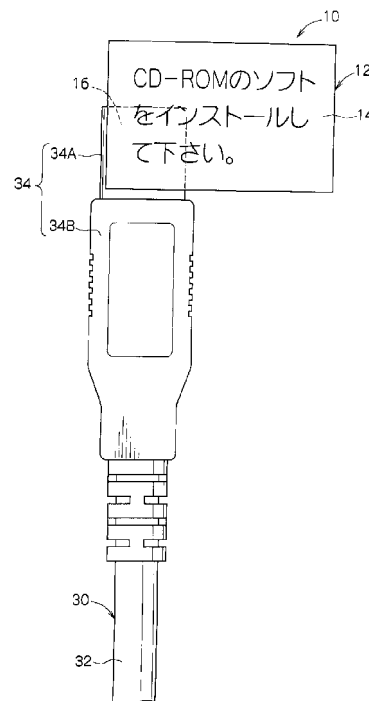
(54) 【発明の名称】 コネクタ用表示具

(57) 【要約】

【課題】 使用前に1度だけユーザーに対して所定の作業を促すことの可能なコネクタ用表示具を提供する。

【解決手段】 コネクタ用表示具10は、第1表示部材12により構成されている。第1表示部材12の表面14には、ユーザーに対して、コネクタの使用前にユーザーに所定の作業を促す情報、本実施形態では、コネクタの使用前にCD-ROMのソフトをインストールする作業を促す第1の情報が表示されている。第1表示部材12の裏面の接着部16には、接着剤が塗布されている。コネクタ34の接続部34Aには、第1表示部材12が、接着部16に塗布された接着剤を介して接着されている。したがって、コネクタ34は、第1表示部材12が除去されなければ、外部機器の対応する接続端子へ接続不能となっている。第1表示部材12は、ユーザーにより、コネクタ34から剥離可能とされている。

【選択図】 図1



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

コネクタに取り付けられるコネクタ用表示具であって、コネクタの使用前にユーザーに所定の作業を促す第 1 の情報が表示され、ユーザーによってこのコネクタ用表示具が除去されなければコネクタを接続不能な位置に取り付けられ、前記コネクタから除去可能とされた第 1 表示部材、を備えたコネクタ用表示具。

【請求項 2】

コネクタの接続時に有効とされる第 2 の情報が表示され、前記コネクタの接続に支障のない位置に取り付けられた第 2 表示部材、をさらに備えた請求項 1 に記載のコネクタ用表示具。 10

【請求項 3】

前記第 1 表示部材と前記第 2 表示部材とは一体的に構成されると共に、各々が分離可能とされていることを特徴とする請求項 2 に記載のコネクタ用表示具。

【発明の詳細な説明】**【0001】****【発明の属する技術分野】**

本発明は、コネクタに取り付けられるコネクタ用表示具に関する。

【0002】**【従来の技術】**

従来より、コネクタを接続させる際にユーザーに所定の注意を促すために、様々な表示具が利用されている。例えば、特許文献 1 では、図 13 に示すように、温水プラグ 100 を、表示具としての保護カバー 102 で覆い、保護カバー 102 に温水プラグ 100 に関する警告を記載することにより、ユーザーへ所定の注意を促している。また、特許文献 2 では、図 14 に示すように、プラグ 110 のケーブル部分にプラグ 110 が取り付けられている機器名の表示された表示具としてのタグ表示具 112 を取り付け、プラグ 110 がどの機器のものかを、ユーザーに示している。また、特許文献 3 では、図 15 に示すように、ケーブルコネクタ 120 が接続される先の機器 122 のコネクタ 124 に、所定の注意書きの記載された表示具としてのカバーシート 126 が設けられ、この注意書きによりユーザーへ所定の注意を促している。 20 30

【0003】

ところで、所定の電子機器の場合には、当該電子機器と他の電子機器とをケーブルで接続して使用する前に 1 度だけユーザーにより所定の作業が行われなければならないものがある。しかしながら、特許文献 1、2 に記載された技術では、ユーザーに前記所定の作業を促そうとしても、表示具を除去することなくコネクタを接続可能であるため、ユーザーへの告知としては不十分であった。また、特許文献 3 に記載された技術では、表示具によりコネクタが覆われているため、ユーザーはコネクタを接続する際に表示具を移動させる必要があるが、この表示具はコネクタの未使用時には、常時コネクタの接続部を覆う位置にあるため、所定の作業が行われた後も前記所定の作業を促すことになるという不都合が生じてしまう。 40

【0004】**【特許文献 1】**

実用新案登録第 3076080 号公報

【特許文献 2】

特開 2001 - 5393 号公報

【特許文献 3】

特開平 5 - 299129 号公報

【0005】**【発明が解決しようとする課題】**

本発明は、上記事実を考慮して成されたものであり、使用前に 1 度だけユーザーに対して 50

所定の作業を促すことの可能なコネクタ用表示具を提供することを目的とする。

【 0 0 0 6 】

【課題を解決するための手段】

上記目的を達成するために、請求項 1 に記載のコネクタ用表示具は、コネクタに取り付けられるコネクタ用表示具であって、

コネクタの使用前にユーザーに所定の作業を促す第 1 の情報が表示され、ユーザーによってこのコネクタ用表示具が除去されなければコネクタを接続不能な位置に取り付けられ、前記コネクタから除去可能とされた第 1 表示部材、を含んで構成されている。

【 0 0 0 7 】

本発明のコネクタ用表示具の第 1 表示部材は、コネクタから除去可能とされていると共に、ユーザーによってこのコネクタ用表示具が除去されなければコネクタを接続不能な位置に取り付けられている。そこで、ユーザーがこのコネクタを使用する場合には、第 1 表示部材を除去する必要があるが、この第 1 表示部材には、コネクタの使用前にユーザーに所定の作業を促す第 1 の情報が表示されている。したがって、このコネクタ用表示具によれば、ユーザーに対して、コネクタが使用される前に、効果的に所定の作業を促すことができる。また、第 1 表示部材は、コネクタを使用する際にユーザーによって除去されるので、その後の使用の際にはユーザーに前記所定の作業が促されることはない。したがって、コネクタの使用前に 1 度だけユーザーに対して所定の作業を促すことができる。

【 0 0 0 8 】

なお、本発明のコネクタ用表示具は、請求項 2 に記載のように、コネクタの接続時に有効とされる第 2 の情報が表示され、前記コネクタの接続に支障のない位置に取り付けられた第 2 表示部材、をさらに含んで構成することもできる。

【 0 0 0 9 】

このコネクタ用表示具によれば、第 2 表示部材は、コネクタの接続に支障のない取り付けられているので、除去する必要がなく、ユーザーがコネクタを使用する際に随時、ユーザーに対して第 2 の情報を提示することができる。なお、第 2 の情報としては、例えば、コネクタの取り付けられている機器名、コネクタを使用する際の注意事項、などがある。

【 0 0 1 0 】

また、本発明のコネクタ用表示具は、請求項 3 に記載のように、前記第 1 表示部材と前記第 2 表示部材とが一体的に構成されると共に、各々が分離可能とされていることを特徴とすることもできる。

【 0 0 1 1 】

このように、第 1 表示部と第 2 表示部とを一体的に構成することにより、簡易に製造することができる。また、第 1 表示部と第 2 表示部とは、各々が分離可能とされているので、第 1 表示部が除去された後も、第 2 表示部をコネクタに取り付けたままにしておくことができる。

【 0 0 1 2 】

【発明の実施の形態】

[第 1 実施形態]

本実施形態におけるケーブル 30 (図 1 参照) は、図示しないデジタルカメラを図示しない外部機器に接続するためのケーブルである。ケーブル 30 により、当該デジタルカメラと外部機器とを接続して、デジタルカメラからのデータを外部機器へダウンロードする等の処理を行う際には、ユーザーにより外部機器に所定の CD - ROM のソフトがインストールされなければならない構成のものである。

【 0 0 1 3 】

図 1 に示すように、ケーブル 30 は、ケーブル部 32 及びコネクタ 34 を備える。コネクタ 34 は、ケーブル 30 の一端部に備えられ、接続部 34 A 及び握り部 34 B を備える。接続部 34 A は、外部機器の対応するコネクタに差し込まれる部分であり、握り部 34 B は接続部 34 A とケーブル部 32 との間に配置され、コネクタ 34 の取り付け、及び、取り外しの際に、ユーザーによって握られる部分である。

10

20

30

40

50

【 0 0 1 4 】

図 1 に示すように、コネクタ用表示具 1 0 は、第 1 表示部材 1 2 により構成されている。第 1 表示部材 1 2 の表面 1 4 には、ユーザーに対して、コネクタの使用前にユーザーに所定の作業を促す情報、本実施形態では、コネクタの使用前に C D - R O M のソフトをインストールする作業を促す第 1 の情報が表示されている。第 1 表示部材 1 2 の裏面の接着部 1 6 には、接着剤が塗布されている。

【 0 0 1 5 】

なお、第 1 表示部材 1 2 は、帯電防止加工が施されていることが好ましい。

【 0 0 1 6 】

コネクタ 3 4 の接続部 3 4 A には、第 1 表示部材 1 2 が、接着部 1 6 に塗布された接着剤を介して接着されている。したがって、コネクタ 3 4 は、第 1 表示部材 1 2 が除去されなければ、外部機器の対応する接続端子へ接続不能となっている。第 1 表示部材 1 2 は、ユーザーにより、コネクタ 3 4 から剥離可能とされている。 10

【 0 0 1 7 】

次に、本実施形態の作用について説明する。

【 0 0 1 8 】

ユーザーがケーブル 3 0 を用いてデジタルカメラと外部機器とを接続する際には、コネクタ 3 4 を外部機器の対応するコネクタへ接続する。このとき、ユーザーは、コネクタ用表示具 1 0 の第 1 表示部材 1 2 をコネクタ 3 4 から剥離しなければならないが、第 1 表示部材 1 2 の表面 1 4 には、コネクタの使用前に C D - R O M のソフトをインストールする作業を促す第 1 の情報が表示されている。 20

【 0 0 1 9 】

したがって、上記コネクタ用表示具 1 0 によれば、ユーザーに対して、コネクタが使用される前に効果的に、外部機器へ C D - R O M のソフトをインストールする作業を促すことができる。

【 0 0 2 0 】

また、一旦外部機器へソフトがインストールされれば、再度ユーザーへこのインストールを促す必要はなくなるが、本実施形態によれば、第 1 表示部材 1 2 は、コネクタ 3 4 を使用する際にユーザーによって除去される。したがって、その後のコネクタ 3 4 の使用の際には、ユーザーに前記インストールが促されることはなく、コネクタ 3 4 の使用前に 1 度 30 だけユーザーに対して前記インストールを促すことができる。

【 0 0 2 1 】

なお、上記では、接着部 1 6 に接着剤を塗布して第 1 表示部材 1 2 を接続部 3 4 A に接着した例について説明したが、第 1 表示部材 1 2 を図 2 に示すような構成にして、接続部 3 4 A に接着することもできる。すなわち、第 1 表示部材 1 2 を、第 1 の情報が表示される表面層 1 2 A、接着可能部材からなる接着層 1 2 B、及び接着層 1 2 B を覆う剥離可能な剥離層 1 2 C を積層させて構成する。そして、接着部 1 6 の剥離層 1 2 C を接着層 1 2 B から剥離して接着層 1 2 B を露出させ、第 1 表示部材 1 2 を接続部 3 4 A に接着させる。このような構成とすることにより、第 1 表示部材 1 2 の一部に接着材を塗布する必要がなくなり、簡易な方法で第 1 表示部材 1 2 の一部分に接着機能を持たせることができる。 40

【 0 0 2 2 】

また、第 1 表示部材の形状は、上記の形状に限定されるものではない。例えば、図 3 に示す第 1 表示部材 4 2 のように、袋状とすることもできる。この場合には、第 1 表示部材 4 2 の表面 1 4 に切込みを入れて開口 4 6 を構成し、コネクタ 3 4 の接続部 3 4 A を、開口 4 4 から第 1 表示部材 4 2 の中へ挿入することにより、コネクタ用表示具 1 0 をコネクタ 3 4 に取り付ける。この構成によれば、コネクタ 3 4 を覆うことができ、コネクタ 3 4 へのゴミなどの付着を防止することができる。

【 0 0 2 3 】

また、図 4 に示す第 1 表示部材 4 6 のように、筒状とすることもできる。この場合には、第 1 表示部材 4 6 を熱により収縮可能な部材で構成すると共に、側部にミシン目 4 8 を構 50

成しておく。そして、図 5 (A) に示すように、コネクタ 3 4 を、第 1 表示部材 4 6 の筒の内側に挿入した後に、加熱により第 1 表示部材 4 6 を収縮させて、図 5 (B) に示すように、第 1 表示部材 4 6 をコネクタ 3 4 に密着させることにより取り付ける。ユーザーによる、第 1 表示部材 4 6 のコネクタ 3 4 からの除去は、ミシン目 4 8 を切り離すことにより可能である。

【 0 0 2 4 】

また、図 6 に示す第 1 表示部材 5 0 のように、上記第 1 表示部材 4 6 の裏側の一部を切り離して構成することもできる。この場合にも、上記第 1 表示部材 4 6 と同様にしてコネクタ 3 4 へ取り付ける。また、ユーザーによる、第 1 表示部材 5 0 のコネクタ 3 4 からの除去は、ミシン目を切り離すことなく行うことができる。

10

【 0 0 2 5 】

なお、前記図 4、6 に示す第 1 表示部材 4 6、5 0 は、加熱収縮によらず、接着剤を介してコネクタ 3 4 の接続部 3 4 A へ接着させて取り付けてもよい。

【 0 0 2 6 】

また、図 7 に示す第 1 表示部材 5 4 のように、U 字状とすることもできる。この場合には、U 字の端部内側に接着部 1 6 を設け、接着部 1 6 に接着剤を塗布して接続部 3 4 A と接着させて、第 1 表示部材 5 4 をコネクタ 3 4 に取り付けることができる。

[第 2 実施形態]

次に第 2 実施形態について説明する。本実施形態については、第 1 実施形態と同様の部分については同一の符号を付して、詳細な説明は省略する。

20

【 0 0 2 7 】

図 8 (A) に示すように、第 2 実施形態のコネクタ用表示具 6 0 は、第 1 表示部材 6 2、及び第 2 表示部材 6 4 により構成されている。第 1 表示部材 6 2、及び第 2 表示部材 6 4 は、1 枚のシートで一体的に構成され、ミシン目 6 3 により分離可能とされている。

【 0 0 2 8 】

第 1 表示部材 6 2 の表面 1 4 には、ユーザーに対して、コネクタの使用前にユーザーに所定の作業を促す情報、本実施形態では、コネクタの使用前に C D - R O M のソフトをインストールする作業を促す第 1 の情報が表示されている。第 1 表示部材 6 2 の裏面の接着部 1 6 には、接着剤が塗布されている。

【 0 0 2 9 】

30

第 2 表示部材 6 4 の表面 6 5 には、ユーザーに対して、コネクタ 3 4 の接続時毎に有効とされる情報、本実施形態では、ケーブル 3 0 がデジタルカメラのケーブルであることを明示する、第 2 の情報が表示されている。第 2 表示部材 6 4 の裏面の接着部 6 6 には、接着剤が塗布されている。

【 0 0 3 0 】

コネクタ 3 4 の接続部 3 4 A には、第 1 表示部材 6 2 が、接着部 1 6 に塗布された接着剤を介して接着されている。コネクタ 3 4 の握り部 3 4 B には、第 2 表示部材 6 4 が、接着部 6 6 に塗布された接着剤を介して接着されている。したがって、コネクタ 3 4 は、第 1 表示部材 6 2 が除去されなければ、外部機器の対応するコネクタへ接続不能となっている。第 1 表示部材 6 2 は、ユーザーにより、コネクタ 3 4 から剥離可能とされている。

40

【 0 0 3 1 】

なお、第 2 表示部材 6 4 の握り部 3 4 B への接着強度は、第 1 表示部材 6 2 の接続部 3 4 A への接着強度よりも強いことが好ましい。これは、第 1 表示部材 6 2 がユーザーにより剥離可能とされているのに対し、第 2 表示部材 6 4 は剥離されず握り部 3 4 B に接着されたまま使用されるため、容易に剥離されない強度で接着されているのが好ましいためである。

【 0 0 3 2 】

次に、本実施形態の作用について説明する。

【 0 0 3 3 】

ユーザーがケーブル 3 0 を用いてデジタルカメラと外部機器とを接続する際には、コネク

50

タ 3 4 を外部機器の対応するコネクタへ接続する。このとき、コネクタ用表示具 6 0 の第 1 表示部材 6 2 は、ユーザーにより、ミシン目 6 3 で第 2 表示部材 6 4 から分離されてコネクタ 3 4 から剥離されなければならないが、第 1 表示部材 1 2 の表面 1 4 には、コネクタの使用前に C D - R O M のソフトをインストールする作業を促す第 1 の情報が表示されている。

【 0 0 3 4 】

したがって、上記コネクタ用表示具 6 0 によれば、ユーザーに対して、コネクタが使用される前に効果的に、外部機器へ C D - R O M のソフトをインストールする作業を促すことができる。

【 0 0 3 5 】

また、一旦外部機器へソフトがインストールされれば、再度ユーザーへこのインストールを促す必要はなくなるが、本実施形態によれば、第 1 表示部材 6 2 は、コネクタ 3 4 を使用する際にユーザーによって除去される。したがって、その後のコネクタ 3 4 の使用の際には、ユーザーに前記インストールが促されることはなく、コネクタ 3 4 の使用前に 1 度だけユーザーに対して前記インストールを促すことができる。

【 0 0 3 6 】

また、第 2 表示部材 6 4 は、第 1 表示部材 6 2 が除去された後も、図 8 (B) に示すように、コネクタ 3 4 の握り部 3 4 B に取り付けられたままなので、ユーザーに対して、コネクタ 3 4 の設けられたケーブル 3 0 が、デジタルカメラのケーブルである旨を明示することができる。

【 0 0 3 7 】

なお、第 1 表示部材、及び、第 2 表示部材の形状は、上記の形状に限定されるものではない。例えば、図 9 に示す、第 1 表示部材 7 2、及び、第 2 表示部材 7 4 のように、袋状としてコネクタ用表示具 7 0 を構成することもできる。この場合には、第 2 表示部材 7 4 の表面 6 5 に切込みを入れて開口 7 5 を構成し、コネクタ 3 4 を、開口 7 5 から第 2 表示部材 7 4 及び第 1 表示部材 7 2 の中へ挿入することにより、コネクタ用表示具 7 0 をコネクタ 3 4 に取り付ける。

【 0 0 3 8 】

第 1 表示部材 7 2 と第 2 表示部材 7 4 とがミシン目 6 3 で分離され、第 1 表示部材 7 2 がコネクタ 3 4 から除去された後は、図 9 (B) に示すように、第 2 表示部材 7 4 のみがコネクタ 3 4 に取り付けられた状態となる。

【 0 0 3 9 】

また、図 1 0 に示す第 1 表示部材 8 2、及び、第 2 表示部材 8 4 のように筒状として、構成することもできる。この場合には、第 1 表示部材 8 2、及び、第 2 表示部材 8 4 を熱により収縮可能な部材で構成して、第 1 実施形態で説明した、第 1 表示部材 4 6 (図 5 参照) と同様にしてコネクタ 3 4 に取り付ける。ユーザーによる、第 1 表示部材 4 6 のコネクタ 3 4 からの除去は、ミシン目 8 3 及びミシン目 6 3 を切り離すことにより可能である。

【 0 0 4 0 】

第 1 表示部材 8 2 がコネクタ 3 4 から除去された後は、図 1 0 (B) に示すように、第 2 表示部材 8 4 のみがコネクタ 3 4 に取り付けられた状態となる。

【 0 0 4 1 】

また、図 1 1 に示す第 1 表示部材 8 6、及び、第 2 表示部材 8 8 のように、上記第 1 表示部材 8 2、及び、第 2 表示部材 8 4 の裏側の一部を切り離して構成することもできる。この場合にも、上記第 1 表示部材 8 2、及び、第 2 表示部材 8 4 と同様にしてコネクタ 3 4 へ取り付ける。また、ユーザーによる、第 1 表示部材 8 6 のコネクタ 3 4 からの除去は、ミシン目 6 3 を切り離すことにより行うことができる。

【 0 0 4 2 】

なお、前記図 1 0 に示す、第 1 表示部材 8 2、第 2 表示部材 8 4、及び、図 1 1 に示す第 1 表示部材 8 6、第 2 表示部材 8 8 は、加熱収縮によらず、接着剤を介してコネクタ 3 4 の接続部 3 4 A へ接着させて取り付けてもよい。

10

20

30

40

50

【 0 0 4 3 】

また、第 1 表示部材、第 2 表示部材は、図 1 2 に示す第 1 表示部材 9 2、第 2 表示部材 9 4 のように、U 字状とすることもできる。この場合には、第 2 表示部材 9 4 の内側に接着部 6 6 を設け、接着部 6 6 に接着剤を塗布して握り部 3 4 B と接着させて、コネクタ用表示具 9 0 をコネクタ 3 4 に取り付ける。ユーザーによる、第 1 表示部材 9 2 のコネクタ 3 4 からの除去は、ミシン目 6 3 を切り離すことにより可能である。

【 0 0 4 4 】

第 1 表示部材 8 2 がコネクタ 3 4 から除去された後は、図 1 2 (B) に示すように、第 2 表示部材 9 4 のみがコネクタ 3 4 に取り付けられた状態となる。

【 0 0 4 5 】

また、本実施形態では、第 2 の情報として、ケーブル 3 0 がデジタルカメラのケーブルである旨を表示したが、第 2 の情報は、このようにケーブルの用途に限定されるものではない。その他にも、例えば、水濡れ禁止、折曲げ禁止、接続禁止コネクタの種類、などを第 2 の情報として表示することもできる。

【 0 0 4 6 】

また、本実施形態では、第 1 表示部材と第 2 表示部材とを一体的に構成している例について説明したが、第 1 表示部材と第 2 表示部材とは別体であってもよい。特に、一体的に構成することにより、別体とした場合と比較して部品点数を少なくすることができると共に、簡易に製造することができる。

【 0 0 4 7 】

【 発明の効果 】

以上説明したように、本発明のコネクタ用表示具によれば、第 1 表示部材が、コネクタから除去可能とされていると共に、ユーザーによってこのコネクタ用表示具が除去されなければコネクタを接続不能な位置に取り付けられているので、ユーザーに対して、コネクタが使用される前に、効果的に所定の作業を促すことができる。また、第 1 表示部材は、コネクタを使用する際にユーザーによって除去され、その後の使用の際にはユーザーに前記所定の作業が促されることはないので、コネクタの使用前に 1 度だけユーザーに対して所定の作業を促すことができる。

【 図面の簡単な説明 】

【 図 1 】 第 1 実施形態のコネクタ用表示具の正面図である。

【 図 2 】 第 1 実施形態のコネクタ用表示具の変形例を示す (A) は上面図、(B) は X - X での (A) の断面図である。

【 図 3 】 第 1 実施形態のコネクタ用表示具の他の変形例を示す斜視図である。

【 図 4 】 第 1 実施形態のコネクタ用表示具の他の変形例を示す斜視図である。

【 図 5 】 図 4 に示すコネクタ用表示具のコネクタへの取り付けを説明する正面図である。

【 図 6 】 図 4 に示すコネクタ用表示具の変形例を示す斜視図である。

【 図 7 】 第 1 実施形態のコネクタ用表示具の他の変形例を示す斜視図である。

【 図 8 】 第 2 実施形態のコネクタ用表示具の正面図である。

【 図 9 】 第 2 実施形態のコネクタ用表示具の変形例を示す図である。

【 図 1 0 】 第 2 実施形態のコネクタ用表示具の他の変形例を示す図である。

【 図 1 1 】 図 1 0 に示すコネクタ用表示具の変形例を示す図である。

【 図 1 2 】 第 2 実施形態のコネクタ用表示具の他の変形例を示す図である。

【 図 1 3 】 従来例を示す図である。

【 図 1 4 】 従来例を示す図である。

【 図 1 5 】 従来例を示す図である。

【 符号の説明 】

1 0、6 0、7 0、9 0 コネクタ用表示具

1 2、4 2、4 6、5 0、5 4、6 2、7 2、8 2、8 6、9 2 第 1 表示部材

3 0 ケーブル

3 4 コネクタ

10

20

30

40

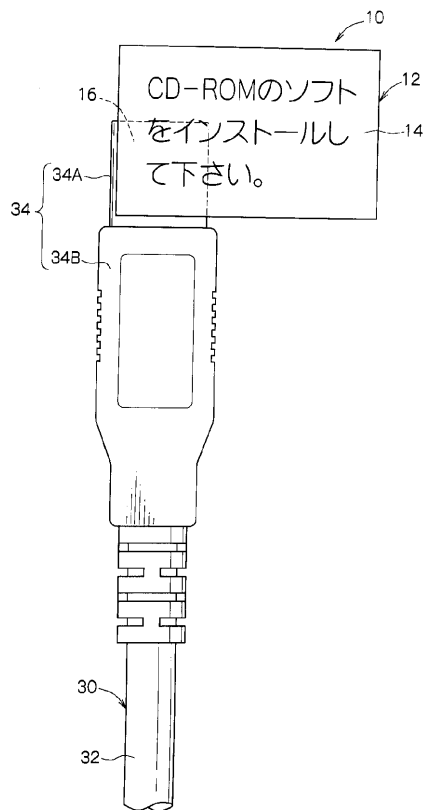
50

3 4 A 接続部

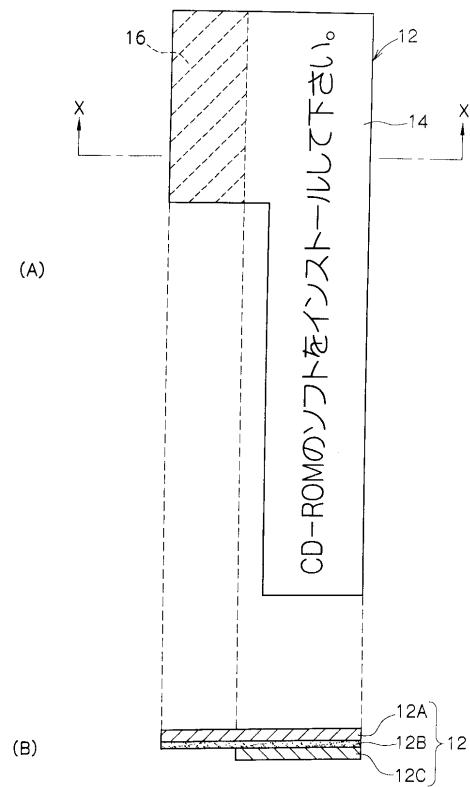
3 4 B 握り部

6 4、7 4、8 4、8 8、9 4 第 2 表示部材

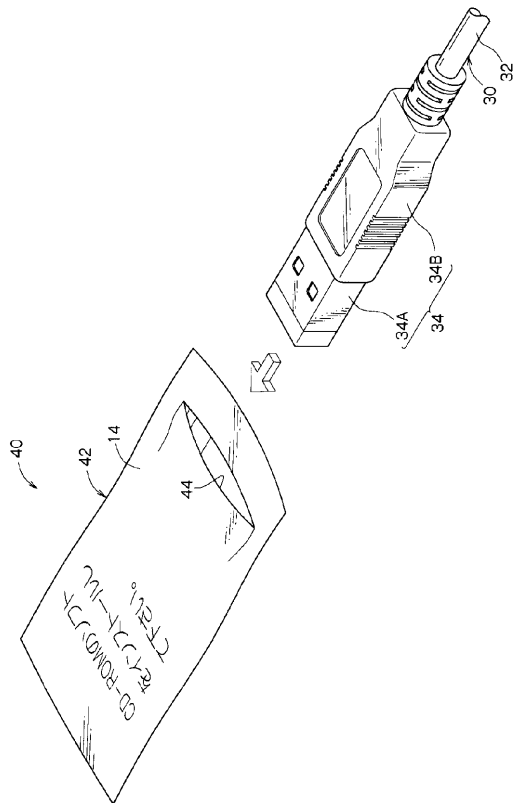
【 図 1 】



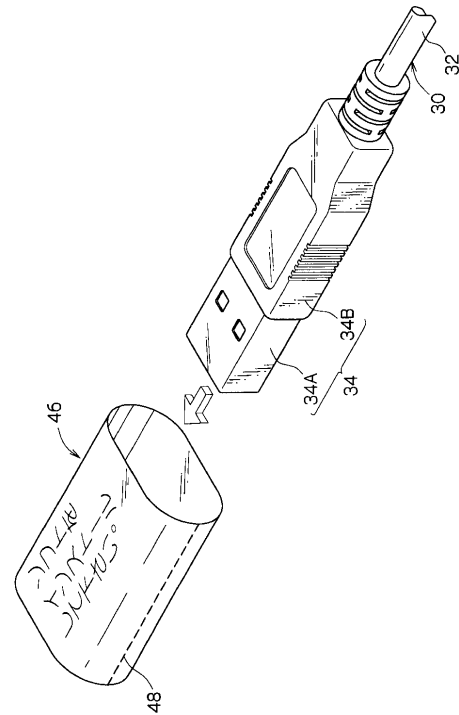
【 図 2 】



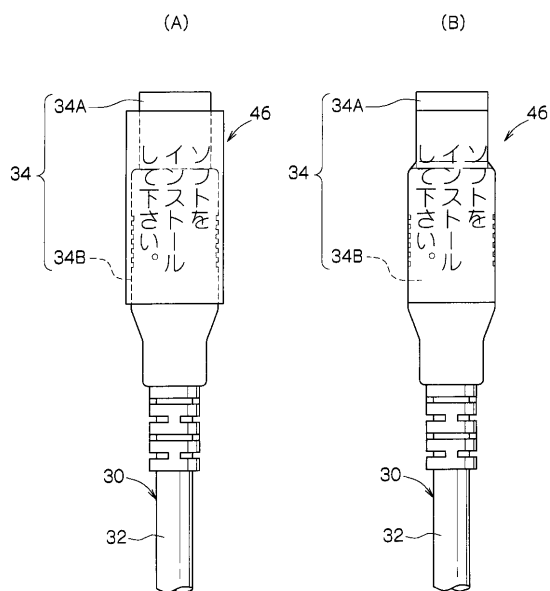
【図 3】



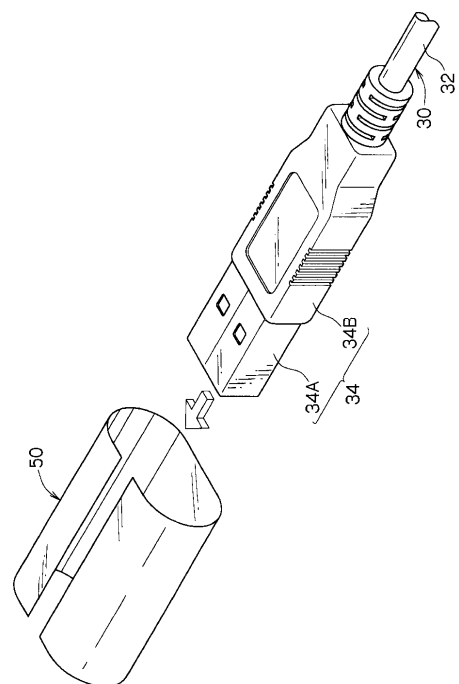
【図 4】



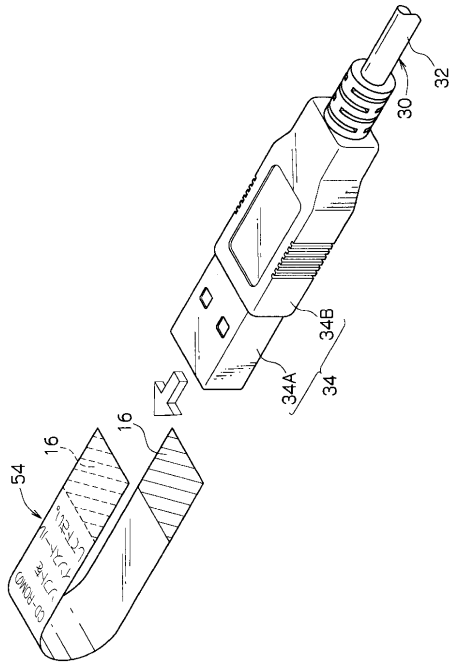
【図 5】



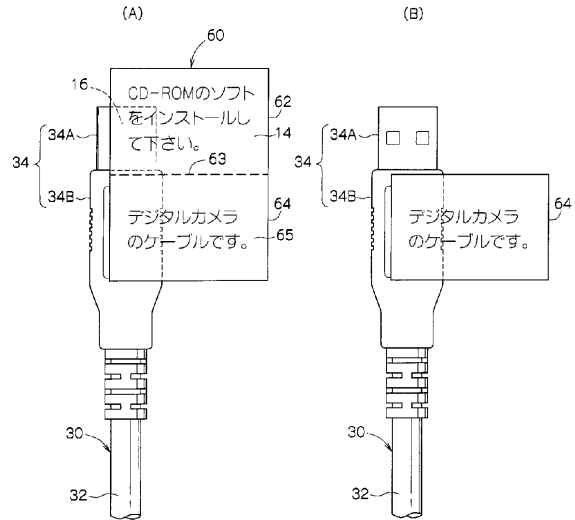
【図 6】



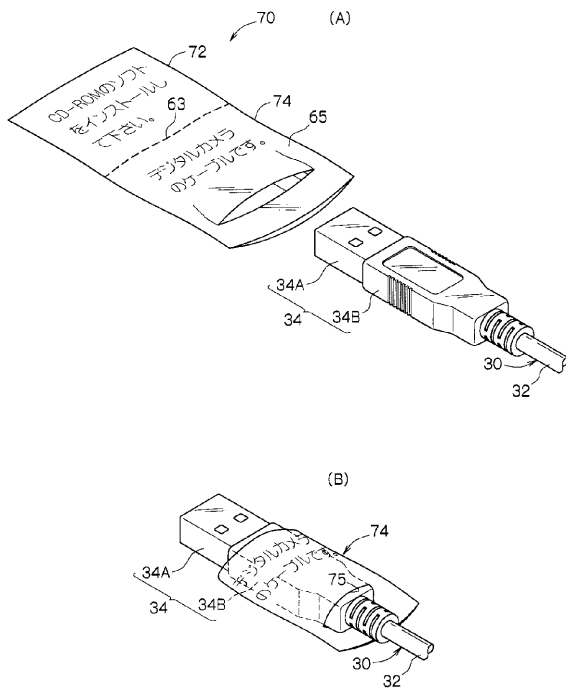
【図 7】



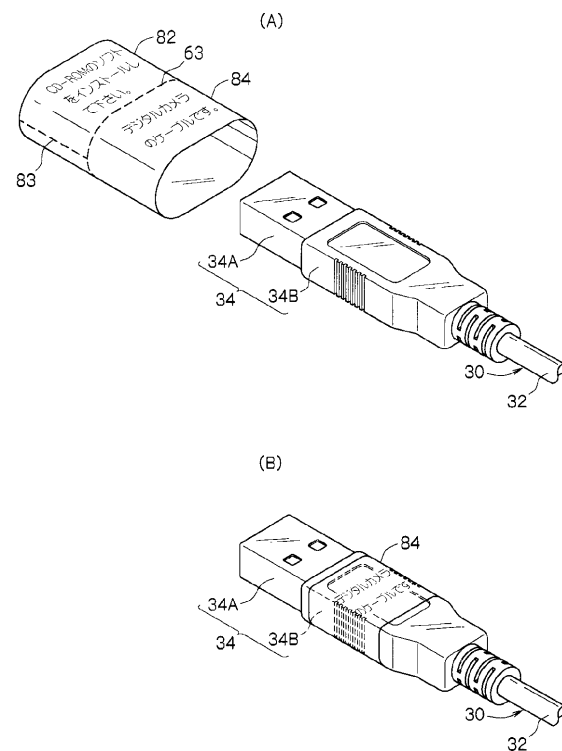
【図 8】



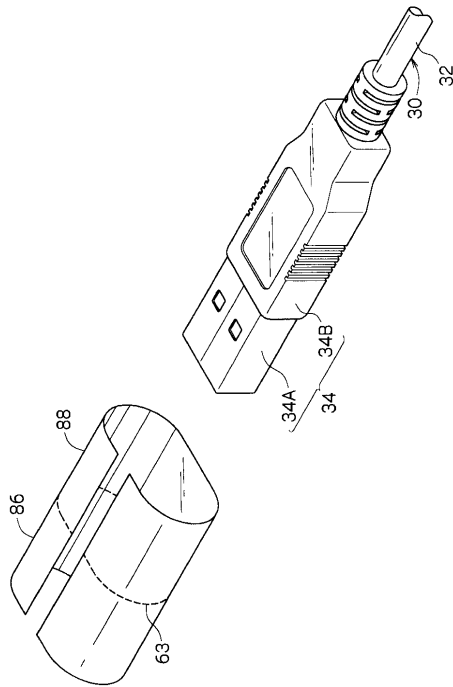
【図 9】



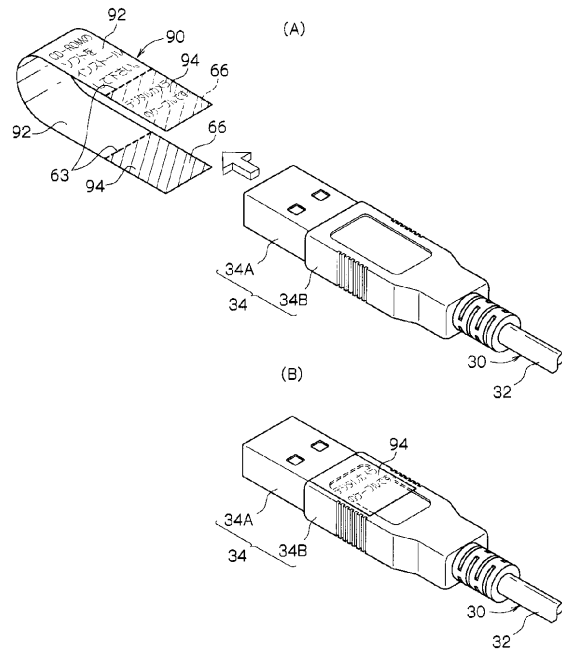
【図 10】



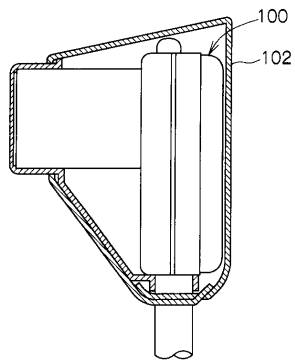
【図 1 1】



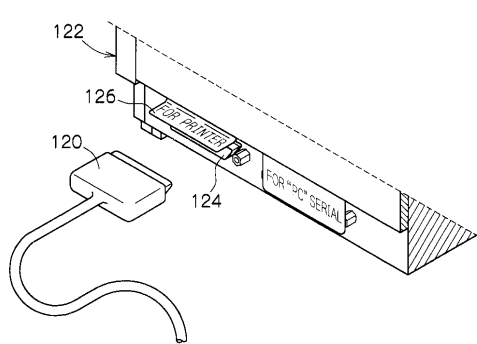
【図 1 2】



【図 1 3】



【図 1 5】



【図 1 4】

